整理番号

D－2－3　　787

標 題 名

小麦銹病と赤黴病の防除徹底を期せよ

著 者 名

発行者名

北海道庁農産課

発 行 年

昭和１４

製作年月

平成２９年３月

昭和十四年

小麥「銹病」と「赤黴病」の防除徹底を期せよ

北海道廳農産課

小麥『銹病』と『赤黴病』の防除徹底を期せよ

時局柄小麥の增産を圖ることは國民食糧の確保並に國際收支の改善上極めて大切な事であるが、最近小麥の『銹病』や『赤黴病』は益々蔓延し被害も甚だしくなる傾向があるので之の防除を行ふ事が目下の急務である。故に左記により石灰硫黄合劑の撒布を徹底的に行つて防除の萬全を期せられたい

一、石灰硫黄合劑の撒布時期

第一回　出穗直前

秋播……六月下旬
春播……七月上旬

第二回　穗揃二、三日後（第一回撒布より一週間―十日位經た頃）

秋播……七月上旬
春播……七月中旬

第三回　糊熟期（第二回撒布より一週間―十日位經た頃）

秋播……七月中旬
春播……七月下旬

二、石灰硫黄合劑の使用方法

石灰硫黄合劑の原液を左記稀釋表（薄め方）によつてボーメ比重〇・四度から〇・五度に薄めて一回撒布量反當六斗から一石噴霧器で撒布するのである。薄める際は水でも差支ないが湯を用ふると一層よい。

稀釋表

原液ノ濃度 ＼ 稀釋ノ濃度	四・〇度	四・五度	五・〇度	六度	七度	八度	九度	一〇度	一一度
〇・四倍	九・二倍	一〇・六倍	一一・八倍	八倍	九倍	一〇倍	一一倍	一二倍	一三倍
〇・五	七・三	八・二	九・三	六	七	七・四	八・二	九・一	一〇・四

稀釋表見の方

例へば原液ボーメ比重三二度のものをボーメ比重〇・四度に薄める場合は一〇一倍（原液一升に水一石）ボーメ比重〇・五度に薄める場合は八一倍（原液一升に水八斗）である。又原液ボーメ比重五度のものをボーメ比重〇・四度に薄める場合は一一・六倍（原液一升に水一斗六合）又ボーメ比重〇・五度に薄める場合は九・三倍（原液一升に水八升三合）である。

三、石灰硫黄合劑（原液）調製方法

市販のものはボーメ比重三〇度内外で之れを使用するのが最も簡單であるが、自家で調製する場合は次の方法によられたい。

(一) 普通式（ボーメ比重四度から五度位のもの）

調合量	
生石灰	一二〇匁
硫黄華	一二〇匁
水	一斗

(二) 濃厚式（ボーメ比重三〇度内外のもの）

調合量	
生石灰	一貫二〇〇匁
硫黄華	六〇〇匁
水	一斗

調製法

先づ湯釜と煮釜を準備する。次に桶に生石灰の所要量を入れて、これに熱湯を少量づゝ注いで石灰液を作り別に硫黄華は少量の湯でとかし、どろ〳〵にしてから、この石灰液に入れて攪拌しながら四〇分―五〇分間煮るのである。液は煮るに從つて淡黄色から赤褐色となり沈澱物の無い様になる。最後に湯釜から熱湯を加へて液の全量を一斗にして更に十分―二十分間煮てから濾すのであるが、出來上つたものはボーメ比重計で其の濃度を測つて置く必要がある。

尙本劑調製又は使用の際は農會に問ひ合せて誤りの無い様にすること。

昭和十四年

北海道廳農產課

―札幌・金井印刷所・印刷―

54. 12. 12
植物防疫資料館
C - 501 - 4051
木下周太
寄贈
D
2-3
787